

ラーニング・サポーター ♪ 9月のつぶやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館 2 階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

<9月のつぶやき♪INDEX>

p1 「光」を求めて美術館へ @S.N.(英文学専攻博士課程前期年) 9月11日 up

つぶやき1♪

「光」を求めて美術館へ

皆さん夏休みはいかがお過ごしでしょうか。私は夏休みが始まる頃、図書館に通い詰めの毎日を想像して張り切っていたのにもかかわらず、実際はというと8月の半分以上は病院と自宅を行ったり来たり…全く、うまくいかないものです。9月は体調を万全にして論文執筆に励んでいきたいところです。

さて、今回は東京・国立新美術館で行われている企画展「テート美術館展 光 —ターナー、印象派から現代へ」のご紹介です。この企画展のテーマはタイトルの通り「光」です。18世紀から現代にいたるまでの光の表現方法や描写技法の変遷を感じ取れる企画展になっています。芸術作品における光の変遷を大きく3つに分けており、西洋美術の所謂“偉い絵”の題材である聖書や神話の伝統を引き継いだ啓蒙時代の絵画に描かれる光、そしてグランドツアーやピクチャレスクへの関心の高まりから自然を美的なものとするロマン主義時代の風景画における光、そして科学技術の発展や都市化が進むことで部屋の中に射し込む光や写真・オブジェを駆使して表現された19世紀末から現代における光といった、200年に渡る芸術作品に見られる光の軌跡を俯瞰することができます。

美術館を訪れる際、企画展の趣旨の理解はもちろんなのですが、ぜひ学芸員の方々による「展示の構成」という視点からも楽しんでいただきたいです(私は博物館や美術館を訪れる度にその構成力に感心しています!)。企画展の趣旨を伝えるために学芸員の方々の専門知が最大限に活かされており、一つ一つの絵画が意図的に並べられることで展示室が生まれ変わります。ですので、ぜひ案内された順序に従って作品を見てくださいますね。また、学生証を持参すれば学生価格で入館することができますのでお忘れなく。まだまだ残暑が続きますので皆さまも体調管理を徹底し、残りの夏休みを有意義に過ごしていきましょう！

国立新美術館: 企画展「テート美術館展 光 —ターナー、印象派から現代へ」

<https://tate2023.exhn.jp/>

* 文学研究科 英文学専攻 *

Department of English Literature

✪ 自己紹介 ✪
英文学専攻 博士課程前期 2年

✪ 研究対象 ✪
18~19世紀イギリス詩: ロマン派詩人 William Wordsworth
(その他興味関心: ヨーロッパ古典文学、西洋哲学・思想史など)

✪ ひとこと ✪
英語・語学習得のコツ、レポート・卒論の不安点、資格取得や留学の相談、人文科学への関心など、学修相談上で困っていることを一緒に考えてみませんか? お話したい内容がまとまらなくてもOKです◎ 思い立ったらぜひ、お気軽にお越しください! お会いできるのを心待ちにしています~♡




